

国プロ「原子炉建屋内の遠隔除染技術の開発」 1～3号機原子炉建屋 汚染状況調査の計画について

2013年12月26日
東京電力株式会社



東京電力

1. H24年度現場調査の成果

■ H24年度の国プロ現場調査では、主に1～3号機原子炉建屋1階（最大線量率約100mSv/hまでのエリア）の現場調査を行い、以下の調査結果を得た。

● 各汚染源（床面／壁・天井／ホットスポット／その他（主に上部構造物））からの床上150cm線量率への寄与率は以下の通りであった。

- ①床面からの寄与率：10%～40%
- ②壁・天井からの寄与率：5%～15%
- ③ホットスポットからの寄与率：10～40%
- ④その他（主に上部構造物）からの寄与率：30%～70%

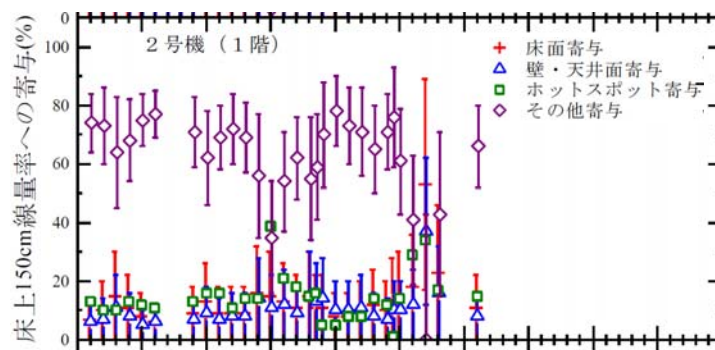


図1 2号機原子炉建屋1階 床上150cmへの線量率寄与割合

- 汚染核種はCs134及びCs137であり、その存在比率は2:3であった(事故時に補正すると1:1)。いずれも事故由来のものと推定。α核種は検出されなかった。
- 浸透汚染はエポキシ塗装面の微少な傷への固着に留まっており、汚染浸透はなかった。



東京電力

2. 調査目的と調査対象エリアについて

- 目的
国プロ「総合的線量低減計画の策定」と協働して行う、原子炉建屋(以下、R/Bという)上層階及び高線量エリア(1号機R/B1階南側、2号機R/B5階)の具体的線量低減方策の検討を促進するためのインプットデータ採取
- H25年度の現場調査範囲
1～3号機原子炉建屋の2階・3階の調査を行う。加えて、H24年度に調査することができなかった1階高線量エリア、及びH24年度調査結果から線量寄与の大半が疑われる上部構造物の調査を行う。

2. 調査目的と調査対象エリアについて

表1 調査エリアと調査項目

号機	階層・エリア	調査項目				備考
		線量率調査 (線量計)	汚染分布調査 (γイメージャ)	内包線源調査 (積算線量計)	浸透汚染調査 (コア分析)	
1号機	1階・南側	○	○	—	○	「Warrior(i-Robot社ROV)+NEDOγカメラ」の組合せにて調査を行う。コア採取は「MEISTeR(三菱重工ROV)」にて行う。
	1階・高所	○	○	—	—	「昇降装置+NEDOγカメラ」の組合せにて調査を行う。
	2階・全域	○	○	—	—	「Rosemary(千葉工大ROV)+N-Visage(英国製γイメージャ)」の組合せにて調査を行う。
	3階・全域	○	○	—	—	「Rosemary(千葉工大ROV)+N-Visage(英国製γイメージャ)」の組合せにて調査を行う。
2号機	1階・高所	○	○	○	—	「昇降装置+NEDOγカメラ」の組合せにて調査を行う。内包線源調査は積算線量計(クイクセルバック)を作業員が貼付する。
	2階・全域	○	○	—	—	「Rosemary(千葉工大ROV)+N-Visage(英国製γイメージャ)」の組合せにて調査を行う。
	3階・全域	○	○	—	—	「Rosemary(千葉工大ROV)+N-Visage(英国製γイメージャ)」の組合せにて調査を行う。
	5階(オペフロ)・全域	○	○	—	○	N-Visage(英国製γイメージャ)にて調査を行う。コア採取は「MEISTeR(三菱重工ROV)」にて行う。
3号機	1階・高所	○	○	—	—	「昇降装置+NEDOγカメラ」の組合せにて調査を行う。
	2階・全域	○	○	—	—	「Rosemary(千葉工大ROV)+N-Visage(英国製γイメージャ)」の組合せにて調査を行う。

3. スケジュール

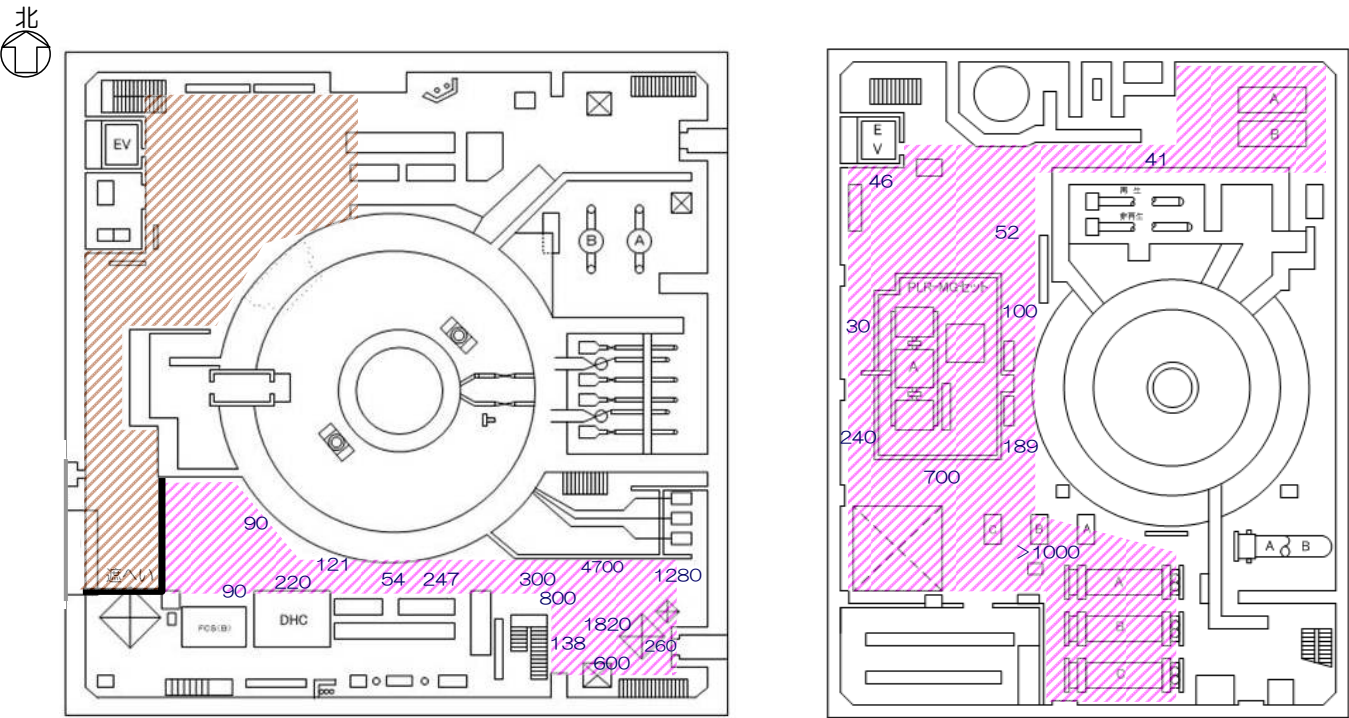
表2 調査スケジュール（予定）

調査エリア	H25年12月			H26年1月			H26年2月			H26年3月			H26年4月			調査結果を踏まえた線量低減 検討結果のインプット先
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
1号機1階南側																H26年度下半期から予定される1号機1階の 除染作業計画策定に資する。
1～3号原子炉建屋1階高所部																1号機1階除染作業（H26年度下半期～）及 び、3号機1階中所除染作業（H26年3月～） の除染作業計画策定に資する。なお、2号機 については、必要に応じて除染作業計画の 見直しを行う。
1号機原子炉建屋2階及び3階																今後の上層階除染計画策定に資する。
2号機原子炉建屋2階及び3階																今後の上層階除染計画策定に資する。
3号機原子炉建屋2階																今後の上層階除染計画策定に資する。
2号機原子炉建屋5階（オベフロ）																H26年度上半期の2号機燃料取り出し工法 決定の判断材料に資する。

※現場でのエリア調整次第では、工程変更の可能性あり

■具体的な調査装置構成や調査ポイントについては、各作業前に別途ご報告する。

＜参考＞1号機1／2階現場調査エリア



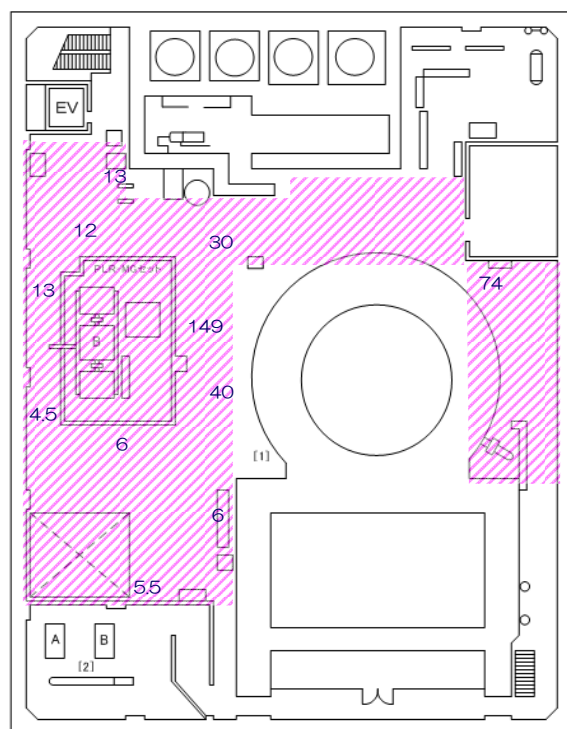
1号機1階

1号機2階

- ： H24年度調査範囲（既実施）
- ： H25年度調査範囲（高所部調査予定範囲は未反映）※

※1号機1階高所部調査範囲は、H25/12から開始予定の3Dレーザ計測データに基づき決定する。

〈参考〉1号機3階現場調査エリア



：H24年度調査範囲(既実施)

1号機3階

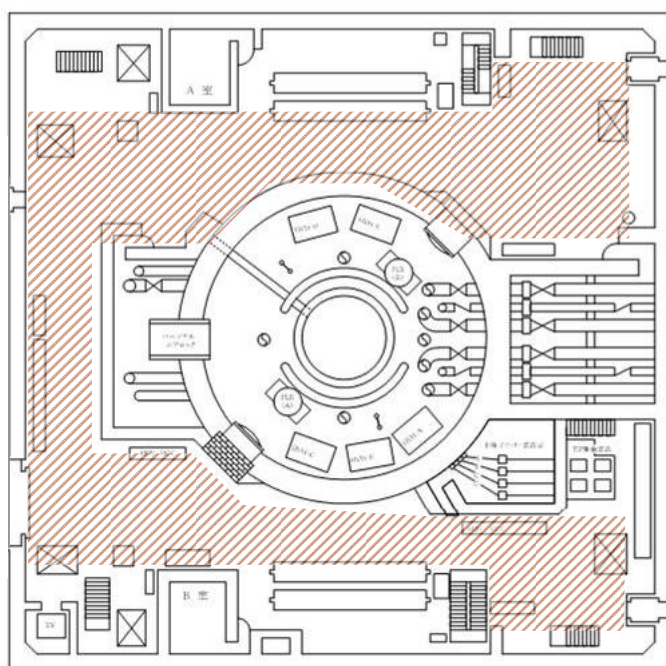
：H25年度調査範囲



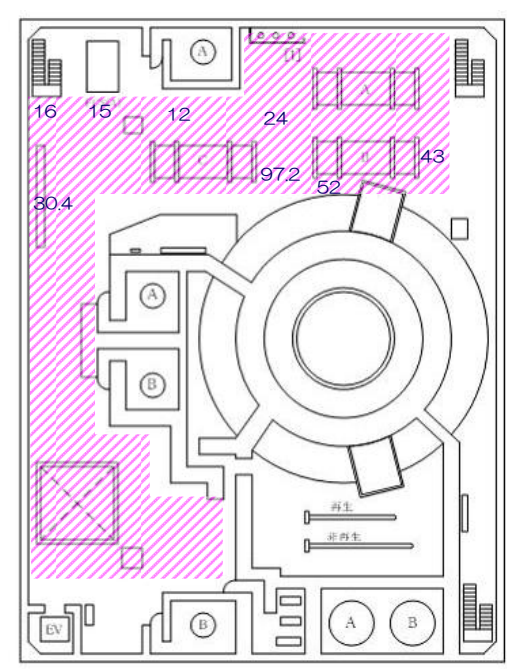
無断複製・転載禁止 東京電力株式会社

6

〈参考〉2号機1／2階現場調査範囲



2号機1階



2号機2階

：H24年度調査範囲(既実施)

：H25年度調査範囲(高所部調査予定範囲は未反映)※

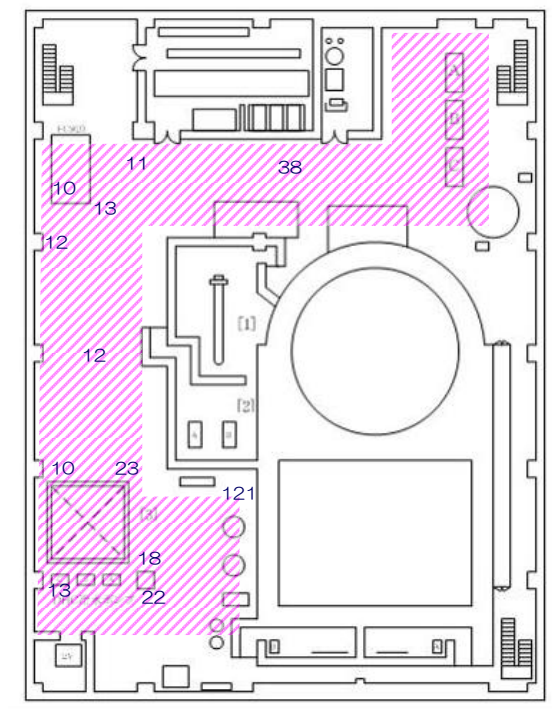
※2号機1階高所部調査範囲は、H25/12から開始予定の3Dレーザ計測データに基づき決定する。



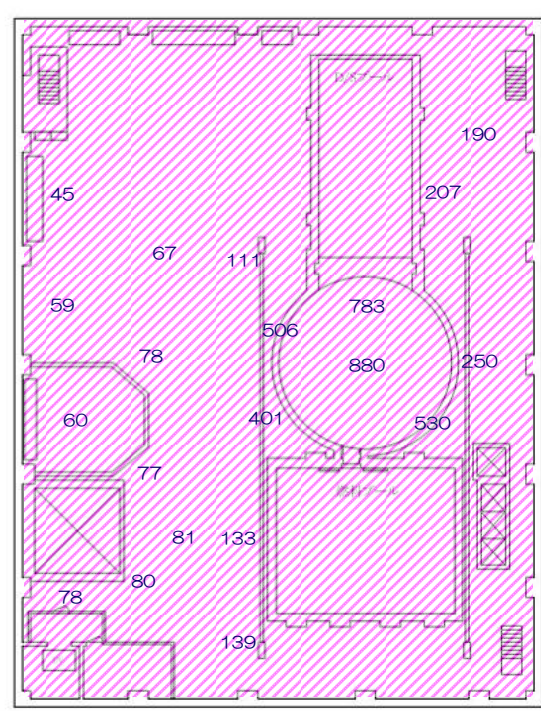
無断複製・転載禁止 東京電力株式会社

7

〈参考〉2号機3／5階現場調査範囲



2号機3階



2号機5階

：H24年度調査範囲(既実施)

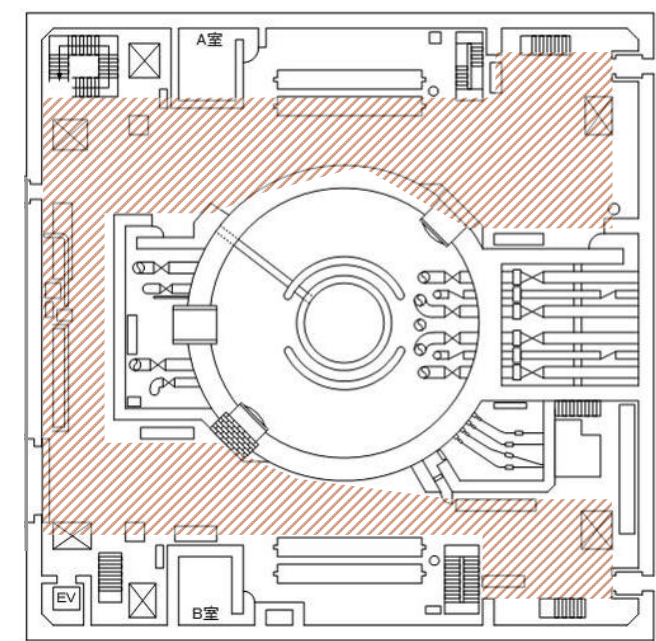
：H25年度調査範囲



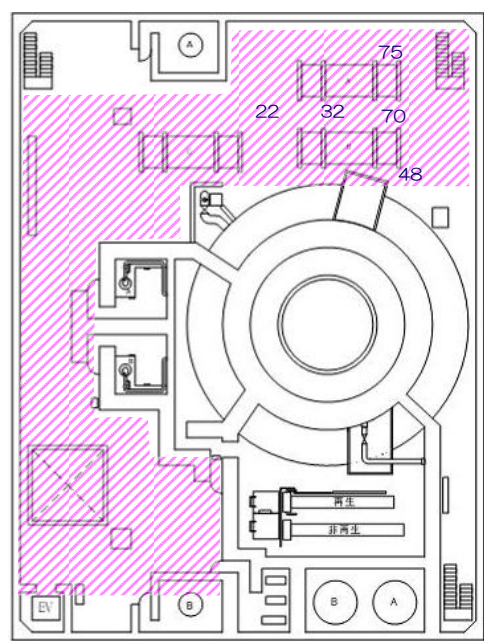
無断複製・転載禁止 東京電力株式会社

8

〈参考〉3号機1／2階現場調査範囲



3号機1階



3号機2階

：H24年度調査範囲(既実施)

：H25年度調査範囲(高所部調査予定範囲は未反映)※

※3号機1階高所部調査範囲は、H26/2以降開始予定の3Dレーザ計測データに基づき決定する。



無断複製・転載禁止 東京電力株式会社

9

1号機原子炉建屋1階南側の汚染状況調査について



東京電力

1. 1号機R/B1階南側のこれまでの調査結果

- これまでに3回の調査(H23/6、H23/10、H24/7)を実施しており、線量データ取得及びトーラス室からの蒸気噴出を確認(最大5,150mSv/h)。
- 線量低減計画を具体化し除染作業を実施するためには、線量データに加えて、γカメラによる線源調査を行い、線源分布を把握することが必要。また、当該エリアは蒸気噴出が確認された特異なエリアであるため、汚染浸透有無を確認するためコア採取を行うことが必要。

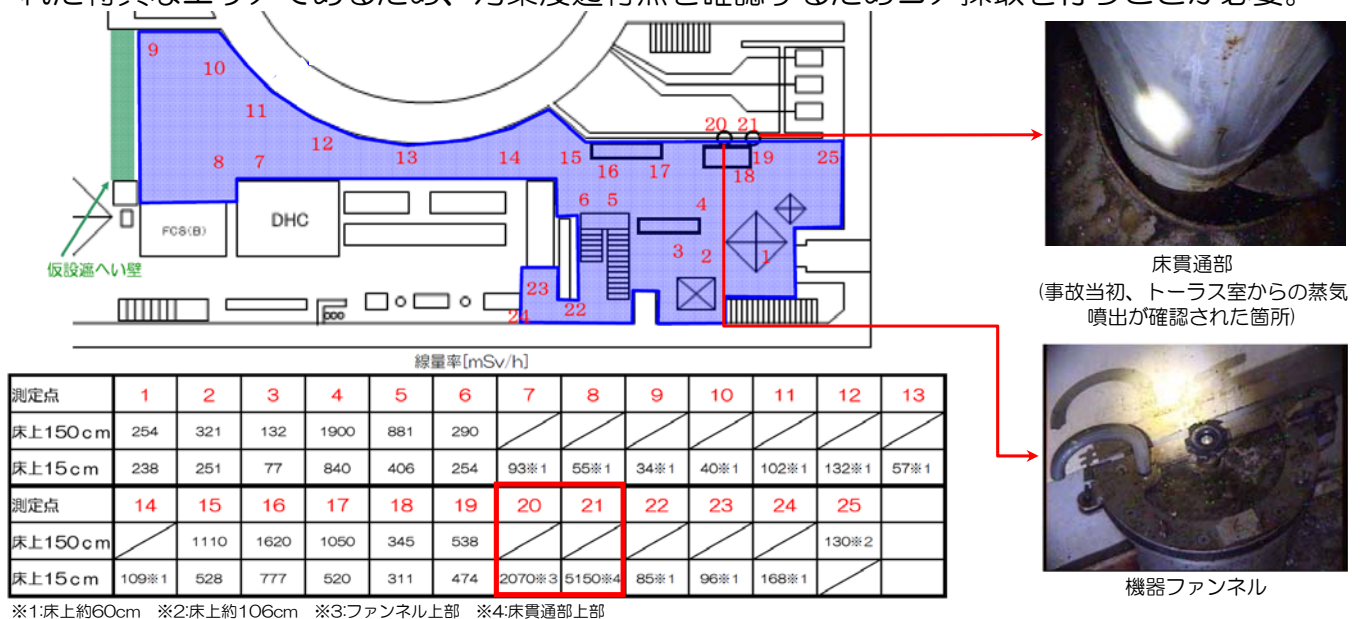


図1 調査結果(H24/7調査分)

前回調査時は床上15cm/150cmの線量測定を行った。本調査は床上5cm/150cmの線量率データ取得及びγカメラ撮影を実施する。



東京電力

2. 調査範囲について

- 1階の南側領域を約3m間隔で床上5cm及び150cmの線量率を測定予定(図2の・印)。また、この内4箇所(図6の×印)にてガンマカメラ撮影を行う。
- ガンマカメラは1箇所につき、仰角及び回転角を変えて全方位の撮影を行う。

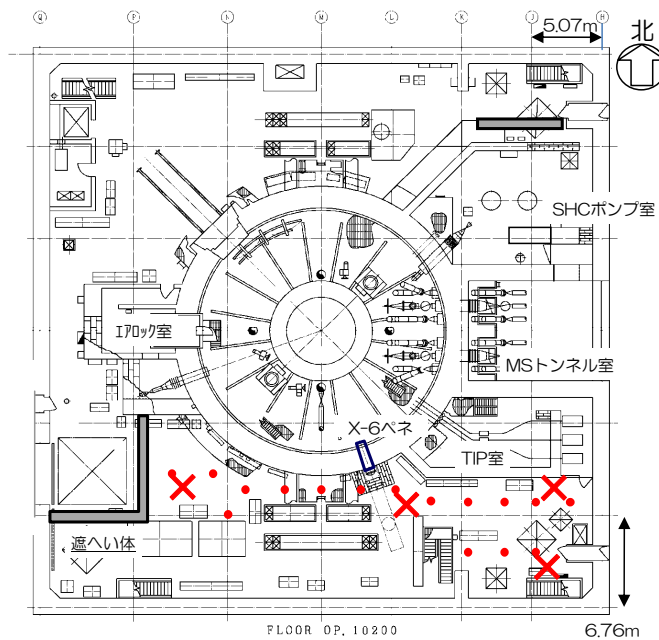


図2 調査エリア（予定）

3. 調査装置構成

- ロボット及びガンマカメラの操作は、1F構内ネットワークを介し、免震重要棟からの遠隔操作で行う。
- 測定ロボット(Warrior)に線量計(床上5cm/150cm)及びガンマカメラを搭載する。測定ロボットの走行・測定を支援するため、無線中継器及び光学カメラを搭載した中継ロボット(Packbot)を走行させる。
- ガンマカメラ下部には、仰角を調整するためのパンチルト機構を設ける。

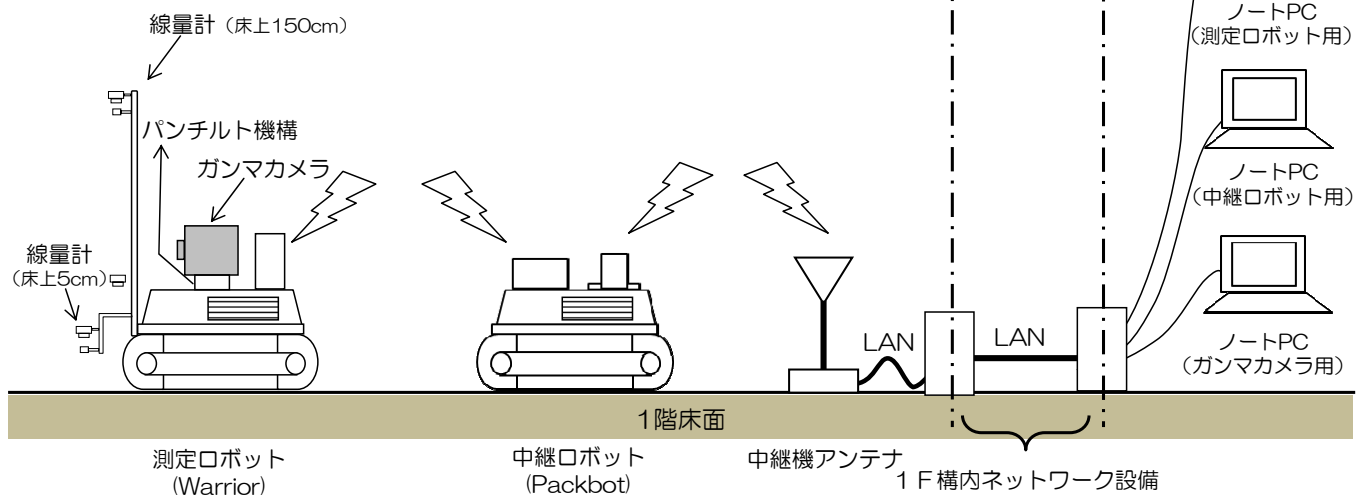


図3 調査装置構成

4. ガンマカメラの仕様について

- （独）新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「災害対応無人化システム研究開発プロジェクト」にて、（株）日立製作所が開発したガンマカメラを使用。
- 主な仕様は以下の通り。

寸法：340mm×430mm×467mm
質量：約80kg
測定可能バックグラウンド線量率(設計点)：300mSv/h
検出器：CdTe半導体検出器(16ピクセル×16ピクセル)
距離補正機能：各ピクセル毎の距離補正

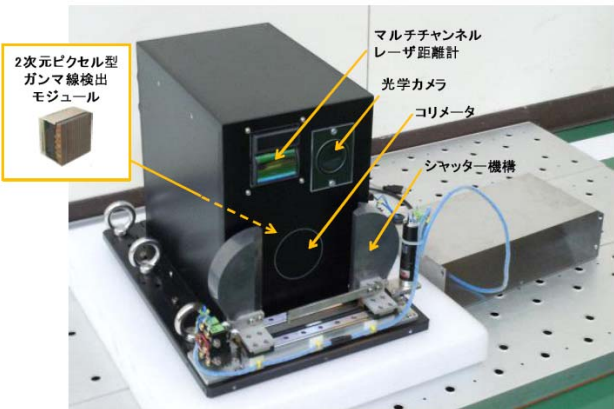


図4 ガンマカメラ外観



図5 ガンマカメラ操作画面

5. スケジュール

表1 調査スケジュール（予定）

調査エリア	H25年12月															H26年1月			H26年2月			H26年3月		
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	上	中	下	上	中	下	上	中	下
南側調査 (線量率・ガンマカメラ)	準備作業																							
南側 コアサンプル採取																								
線量低減計画立案 (調査データ評価含む)																								
線量低減工事																								

1 階南側の線量低減工事は、H26年度下半期より開始

【参考】 1号機R/B1階南側の調査ニーズについて

- 1階南側は、PCV内部調査(X-6ペネからのペデスタル内調査)や、PCV調査・補修作業がH27年度下半期以降予定されており、早急な除染計画立案が必要な状況。
- 計画立案には線量率測定その他、ガンマカメラによる線源把握が必要。

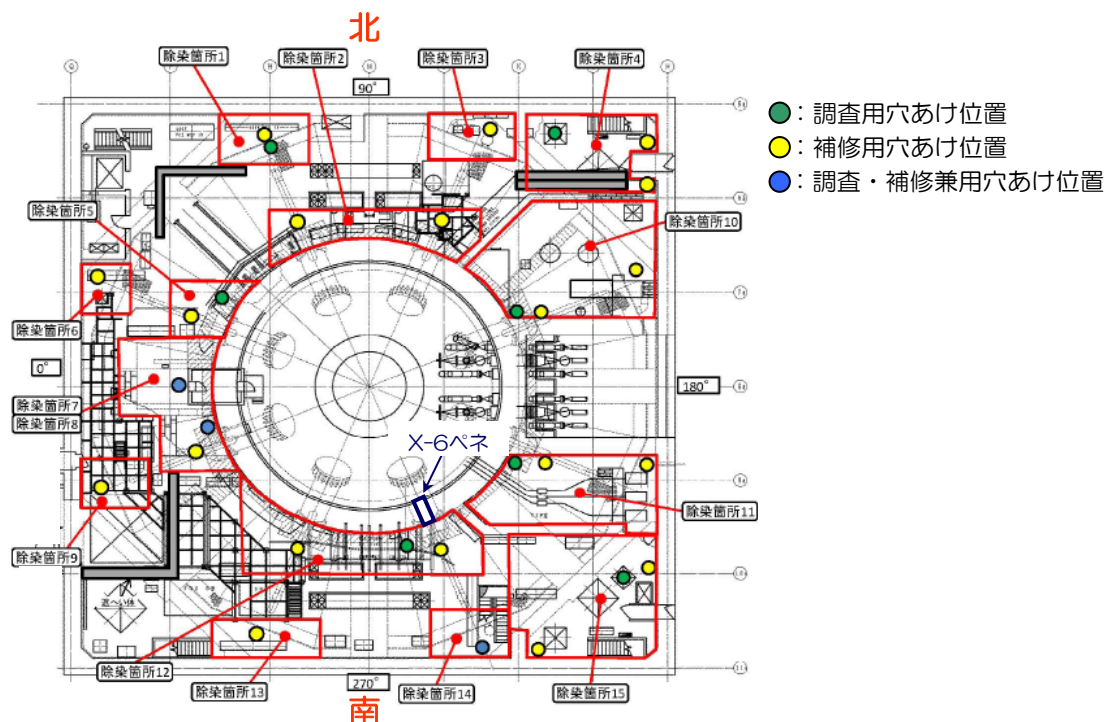


図6 PCV調査・補修のための穴あけ予定位置

【参考】 コアサンプル採取方法について

三菱重工が開発した遠隔作業台車「MEISTeR」の先端アームの片腕にコアボーリング装置を装備し、もう方腕にはコアを切り離すためのタガネを装備する。装置は全て電動駆動であり、油漏れの危険性はない。



図7 階段昇降時



図8 コアボーリング時

- 台車寸法：全長1250mm、幅700mm、全高1300mm
- 質量：約550kg(本体480kg、コアボーリング装置約70kg)
- 対地自動追従式独立4クローラにより、階段や不整地の走行が容易
(原子炉建屋内の階段走行は、寸法上おどき場で引っかかってしまうためNG)
- スロープや階段昇降時は自動で重心位置を検知し、上物の位置を変えることで適切な重心位置の確保が可能(左上図参照)。
- 双腕7軸ロボットアームによりコアボーリング等の作業が可能(右上図参照)。